



令和4年度 基本評価調書①		所管部局	教育庁	所管課	高校教育課		
施策名	国際理解教育の充実			施策コード	1111		
政策体系(中項目)	北海道の未来を拓く人材の育成			政策体系コード	3(2)B		
関連重点戦略計画等	知事公約 創生総合戦略					事務事業数	4
SDGs			総合判定		概ね順調		
予算額(千円)	R 4	17,064	R 3	17,257	R 2	21,218	

施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとに誇りを持ち、諸外国の人々と触れ合いながら国際理解を図る機会の充実を図る。 ・高等学校卒業段階において英語で少なくとも日常的なコミュニケーションができる力を育成する取組を推進する。 	
現状と課題	<p>国際社会の一員としての自覚を持ち、自国や諸外国の歴史や文化、伝統等について理解を深め、尊重し、様々な価値観を持つ人々と共に協調して生きていく態度や、外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図り、国際的な分野で活躍できる人材の育成が必要となっている。</p>	
前年度二次評価意見		対応状況(R4.3時点)

	今年度の取組	実績と成果
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学やオンライン交流など、高校生の国際理解や国際交流の機会を充実・支援。 ・関係機関等と連携し、異なる文化や外国人とのふれあいを深める体験交流の機会の充実。 ・小・中学校及び高等学校の系統的な英語教育の指導体制の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、交換留学事業を対面からオンラインに切り替えて実施した。(アルバータ州、ハワイ州、ニュージーランド、タスマニア州等) (R2、R3) ・異文化や外国人留学生と交流する機会を充実させるため、「Hokkaido Study Abroad Program」を実施し、連携する道内大学の留学生と高校生との交流を行った。(派遣高校生：R1・29名、R2・24名、R3(オンライン開催)・34名) ・校種間連携を踏まえた英語教育の充実を図るため、本道の授業改善に係る課題を踏まえた研修会を3回開催予定(9月16日、12月16日、2月10日)。

連携状況	<p>校種間連携を踏まえた英語教育の充実に向けた研修会(9月16日、12月16日、2月10日)に、文部科学省の学力調査官や大学教授を講師として招聘し、授業改善に向けた取組の一層の充実を図る。</p>
緊急性優先性	<p>英語能力に関する外部試験において、CEFR B2以上を取得している教員の割合は、R元年度52.0%、R2年度51.4%、R3年度52.5%と横ばいで推移しており、全国平均を下回る状況が続いていることから、教員の指導力・英語力の向上に向けた研修を実施。</p> <p>小学校の英語教育の教科化や、中学校・高等学校における英語教育の高度化に対応するため、教員の指導力・英語力の向上を図る研修の充実などについて、国へ提案・要望。</p>

令和4年度 基本評価調書②	施策名	国際理解教育の充実	施策コード	1111
---------------	-----	-----------	-------	------

〈成果指標の達成状況〉 ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	維持	%	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
国際理解教育を行っている公立高校の割合	目標値		100	100	100	100	100.0%	A
	実績値		100	100	100			

設定理由 北海道教育推進計画における、異文化について理解を深め、コミュニケーション能力を育成する機会の充実に関する施策の進捗を図る指標として設定。

分析（主な取組と成果）

目標値は達成されているため、各学校における国際理解教育の継続的な実施に向け、指導助言を行う。

指標名②	増加	%	R1年度	R2年度	R3年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
高卒段階でCEFR A2以上の英語力を有すると思われる生徒割合	目標値		41	45	50	50	88.2%	C
	実績値		39.8	43.5	44.1			

設定理由 教育振興基本計画及び北海道教育推進計画における、生徒の英語力の向上を図るための英語の指導方法等の工夫・改善に関する施策の進捗を図る指標として設定。

分析（主な取組と成果）

目標値には近づいているものの、未達成であることから、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等において、学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、効果的な指導方法にかかわるワークショップや研究協議等を通し、教員の教科指導力の向上を図る。

指標名③	維持	人	H29年度	H30年度	R1年度	最終目標(R5)	達成率	指標判定
道立学校の留学者数（長期及び短期）	目標値		—	—	560	560	94.6%	B
	実績値		—	—	530			

設定理由 創生総合戦略における「グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材の育成」の観点から、道立高校における長期（3か月以上）及び短期（3か月未満）の留学者数を数値目標として設定（※実績値はH30年度に把握したH29年度値530が現時点で最新）

分析（主な取組と成果）

留学事業や「Hokkaido Study Abroad Program」の実施など、これまで道立高校生が異文化体験や外国人と交流する機会を充実する取組を進めてきたものの、目標は未達成のため、海外の学校とのオンラインでの交流の機会を増やすことなどを通じて、道立高校生の留学につながる取組の更なる充実を図る。

【総合判定】

連携状況	○	緊急性 優先性	○	指標判定	B	総合判定	概ね順調
------	---	------------	---	------	---	------	------

翌年度に向けた 対応方針	対応方針番号	内容
	①	CEFR A2以上の生徒割合50%の達成など、生徒の英語力の向上に向けては、教員に対して学習指導要領の趣旨の徹底を図るとともに、パフォーマンステスト等の学習評価の充実を図るなどの取組が必要と考えられることから、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等を通して、教員の教科指導力の向上を図る。
	②	
	③	

令和4年度 基本評価調書③	施策名	国際理解教育の充実	施策コード	1111
---------------	-----	-----------	-------	------

<二次政策評価>

R4年度 二次政策 評価	
--------------------	--

二次政策 評価への 対応			
R5 施策の 方向性	対応方針番号	方向性	関連する事務事業 (新規・拡充)
	①	<p>生徒の英語力の向上に向けては、教員に対して学習指導要領の趣旨の徹底を図るとともに、パフォーマンステスト等の学習評価の充実を図るなどの取組が必要と考えられる。</p> <p>このことから、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等を通して、教員の教科指導力の向上を図るとともに、生徒の英語力を適切に評価するためのパフォーマンステストの開発及び参考資料の作成を通して、学習評価の充実を図る。</p>	拡充：北海道立学校ふるさと応援事業費
	②		
	③		
R5新規事業数			

令和4年度 事務事業評価調書

施策名 国際理解教育の充実

施策コード 1111

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	令和4年度						令和4年度		ACTION 結果への対応(令和5年度)			
						前年度からの繰越事業費(千円)	事業費(千円)	執行体制			フルコスト(千円)	一次政策評価		二次政策評価意見	次年度方向性	二次評価意見への対応状況	
								うち一般財源	本庁	出先機関		人工計	対応方針番号				方向性
0777	-	事務	国際交流推進に係る企画及び調整等に関する事務	国際理解教育及び国際交流の推進に係る各種調整・調査等の実施	高校教育課		0	0	0.4	0.1	0.5	3,892	①	改善(指標分析)		改善	
0778	-	一般	高校生交換留学促進事業費	国際的視野を持ち本道の国際交流をリードするグローバル人材の育成を推進するとともに、姉妹提携地域等との友好と親善を促進するため、同地域等と高校生の交換留学を実施	高校教育課		5,913	1,729	3.1	0.5	3.6	33,935					
0813	-	一般	帰国・外国人児童生徒等教育推進事業費	帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな指導支援体制を整備	義務教育課		2,494	1,819	0.2	1.6	1.8	16,505					
0791	-	一般	グローバル人材育成推進事業	豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、高校生の海外留学等を促進する	高校教育課		8,657	2,657	0.5	0.5	1.0	16,441					
計						0	17,064	6,205	4.2	2.7	6.9						